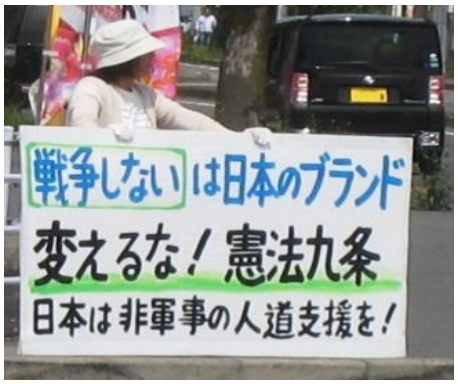
「太平山麓九条の会」だより

事務局：須黒法律会計事務所　〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18　FAX0282-22-3757
電話連絡先 0282-22-7079(増田)
Eメール oohirasanroku9jo@yahoo.co.jp　ＨＰ：太平山麓九条の会で検索

１９４号
２０２３年８月２４日発行

岸田政権の軍拡に反対し、憲法改悪を阻止する 市民の総決起の秋を創ろう!　「9条の会」



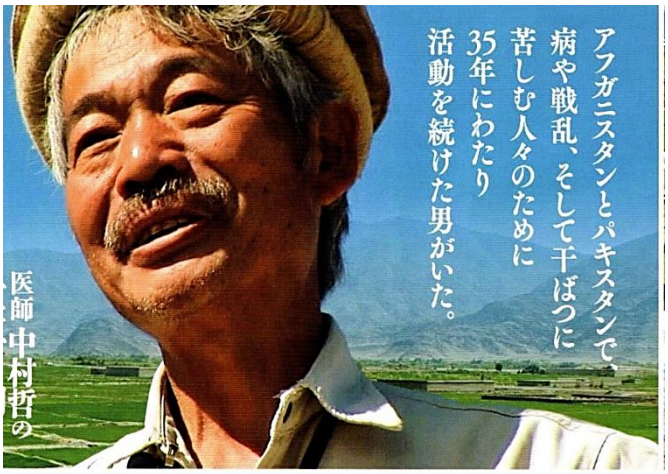
２０１７年５月２５日１２１号掲載

８月 3 日、九条の会は「この秋を、岸田軍拡反対、改憲ストップの総決起の熱い秋に！」と題するアピールを発表しました。具体的な行動としては、10 月 5 日（木）１９時開会（開場１８時３０分）～２１時「なかのＺＥＲＯ」大ホールで「九条の会大集会―大軍拡反対！憲法改悪を止めよう」の開催を提起しています。そして、「この集会をステップにして、11 月 3 日の憲法公布記念日を挟む 11 月を『軍拡反対、岸田改憲阻止の総行動月間』とし、全国各地の九条の会の皆さん、改憲に反対する市民の皆さんに、大軍拡と改憲に反対する多様な行動に立ち上がるよう訴えるものです。」と結んでいます。

平和を願う多くの人の知恵と行動が、岸田改憲の策動にストップをかけることになります。どんな活動がいいか、知恵をお貸しください。そしてともに行動していきましょう。

中村哲さんの重い言葉

元井 茂（記）



今夏大学時代の同級生の個展が横浜であった。彼は長らくアフガニスタンを訪れ、現地の人々との交流に心血を注ぎ、同時に人々の生活を油絵に描いてきた。

その彼との会話の中で交流があった中村哲さんの言葉を、本人を描いた作品の前で話してくれた。

2001 年 9 月１１日のアメリカでの同時テロを主因とするアフガニスタン攻撃にかかわる日本の自衛隊後方支援のことで参考人として国会に出席した場で、アフガニスタン人は親日感情を抱いていること、原爆被害から復興をはたして平和国家となったことを称賛していると述べ、自衛隊派遣は「日本軍」と見られ、信頼の礎を壊しかねないと語り、次のように続けた。

「自衛隊派遣は有害無益」

中村さんは議員からヤジを浴びせられたと言う。必要なことは飢餓対策だと強調した。

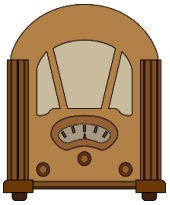
これって真の意味での積極的平和主義の考え方です。人間の尊厳に基づく平和主義の考え方はどんな武器よりも重い。そして、ずっしりと中村哲さんの言葉が心に残った。

同級生と油絵の前で柔和な笑顔をジーっと見つめた酷暑のひと時でした。

私の八月十五日

郡司俊雄（記）

１９４５年８月１５日、私は中学３年生。２年の２学期から勤労動員、三菱重工下丸子工場で戦車づくり、３年生になって矢板市の伯父の家に疎開、大田原中に転校した。学校には行かないから「転勤」。大中の動員先は、国鉄西那須野駅の一つ手前の野崎駅で降り東に行った原野にある戦闘機をつくる工場だった。８月１５日は工場で迎えた。「正午に作業場の前へ全員集合」という連絡。行ってみると朝礼台の上に縦長で天井が丸いラジオが一台だけ置かれていた。工場の全従業員、中学生がラジオに向かって整列。



「玉音放送」の言葉が聞けたかは覚えていない。ただ、「日本が負けた」はすぐわかり、中学生はそのまま帰宅。ゾロゾロ野崎駅に向かった。林のなかの道を通り抜けるとき、一人の若い兵士が道端に立っていた。通り過ぎて私が後ろを振り返ると、彼はたたんだ毛布を所在なげにポーンと高く高く放り投げていた。あの青年は何を考えていたのだろう。中学生もみんな黙って歩いていた。みんなも私も何を考えていたのか。もう爆弾も焼夷弾も落ちてこない。機銃掃射もない。黒い蔽いをとり明るい部屋になった。ホッとしながらも呆然自失。それがこの時の平均的日本人だったのだろうか。何を考えたらいいのかまったくわからなかった。

政府も新しい東久邇（ひがしくに）内閣になったが、何も変えようとしなかった。マッカーサー指令（１０月４日）で国民を弾圧した法律を廃止。弾圧した閣僚を罷免にさせたので東久邇内閣は崩壊、政治犯は釈放された。

作家高見順が日記に「指令を待たずに自分の手でやれなかったのか・・・恥ずかしい」と書いたという。

「新しい戦前」といわれる今、あきれた岸田内閣に呆然自失しない。どこまでも自分の意思を表明し続けよう。

本の紹介　私の八月十五日　昭和二十年の絵手紙

私の八月十五日の会／著　今人舎

郡司さんから、今人舎発行の「私の八月十五日」の本を借りて読んだ。終戦の八月十五日の時、自分はどこで何をしていたのか、記憶を絵と文で描かれている。

「疎開してて最後の荷物を運ぶ軽井沢の駅のラジオから聞いた・・・ビービー・ガーガーとよく聞き取れないが負けたらしいとの大人の声を聞いて、頭の中が真っ白になった」と描いたのは当時１７歳だったさわたり・しょうじさん。玉音放送を聞いて何をどう考えたらいいのか、頭が真っ白になった方が大勢いたのでないだろうか。どの人も戦争の恐ろしさを身をもって体験した人ばかりの八月十五日の出来事はとても重い。だけに、この事実を風化させず、後世に伝えていくことの大切さを感じました。戦争とその結末を見つめ、今私たちは何をすべきなのか・・・ぜひ読んでほしいおすすめの本です。　（大森　記）

頭の中がまっ白に‥

さわたり・しょうじ

スタンディング	９月９日（土）市役所前・１９日（火）カワチ薬品前		両日とも午後４時～
スタッフ会議	９月１日（金）・２２日（金）	午後１時半～	市民活動室くらら２階